

乳房炎の防御 ⑤

尾や肢蹄の汚れは、乳房も汚染します。きれいな牛体の維持は、乳質管理のためにも大切です。



尾、特に先端にふさふさの毛が汚れていると、牛は後軀を汚くしやすくなります。ハエを追っ払うため、尾はその役目は果たしていますが、汚れた尾ではかえってハエをおびき寄せる結果を招いてしまいます。牛床の敷料にも細菌が運び込まれやすく、乳房炎のリスクを高めます。

パラレルパーラー、ローターパーラーの外側搾りのように牛の後方からユニットを装着する場合、尾の汚れは搾乳時の手間も余計にかかりやすくなり、衛生管理にも影響します。



尿や泥で濡れた尾を近くで振られると、人の作業服も汚れてしまいます。こうしたちょっとした汚れや乱雑さを次々と許容してしまうほど、農場の生産性の低下にもつながります。

根本的な解決のためには、汚しやすい場所をきれいにする、あるいは汚れづらくすることでしょうが、簡単で、すぐに対処できることは、“尾の先端のふさふさを取り除く”ことでしょう。

少々尾が汚れていても、手袋をはいてカマなどで注意深く先端をすいてやれば、結構きれいになります。そしてその結果は、すぐに実感することができるでしょう。



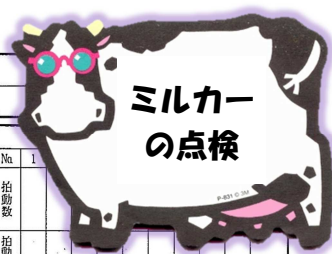
ある酪農家は、搾乳ワゴンにディッパーなどの道具の他、はさみを乗せていました。奥さんがたまに搾乳の合間に尾の先端部の毛を中心にカットし、牛体の汚れを防いでいました（右写真）。

場合によっては断尾も考えられますが、尾全体よりも先端のふさふさ部分の汚れによる影響が特に大きいので、はさみやカマでほぼ解決できるのであれば、試してみる価値はあるでしょう。



ちなみに草食動物である牛の視野は約 350 度もあるそうです。尾は牛の死角となっている後方をセンシングするための道具でもあります。不安や危険を感じた乳牛がやたらに尾を振り回すのは、こうした理由があります。





ミルクの点検

安定した高い性能が特に求められるパケット。決して抜け落とせない大切な点検事項です。

1900年代の旧式「搾乳システム点検表」。一部ではまだ使われているようですが、乳房炎防御のため、搾乳機器に求められるレベルも高まっています。10年以上前に全道的に変更された点検手法による帳票が有益です。

搾乳システム点検表		メーカー名	バケオハイグライナー	年導入	配管システム	農協名	農家名
真空ポンプ	ポンプ馬力数 = () 馬力	点検者			1・2・3		
真空ポンプ	<input type="checkbox"/> Vベルトの張り、老化の状態 <input type="checkbox"/> オイルは正しく消費しているか <input type="checkbox"/> 異常音はしていないか <input type="checkbox"/> パクスターはしていないか <input type="checkbox"/> 直接プラスチック管が接続されていないか						
真空管	<input type="checkbox"/> 容量 () の材質 () <input type="checkbox"/> ビンホール、腐食箇所はないか <input type="checkbox"/> ドレインが正しく作動しているか <input type="checkbox"/> エア漏れはないか						
バルブ	<input type="checkbox"/> 種類 (電バル・エアバル) 型式 () <input type="checkbox"/> 作動の種類 (前後・左右・一挙動) <input type="checkbox"/> 汚れていないかどうか <input type="checkbox"/> 前後式の場合、正しく接続されているか						
ホース	<input type="checkbox"/> ショートミルク・エアチューブは古くないか <input type="checkbox"/> パキュームホースは古くないか <input type="checkbox"/> ミルクホースは古くないか						
パケット	<input type="checkbox"/> バルブセター・クロー・ライナーはミルクと同じか <input type="checkbox"/> ライナー・ホース・パッキン類は老化していないか <input type="checkbox"/> 前後式バルブセターの場合、正しく接続されているか						

